

ちゅうおう

第216号 2026年



- [目次]
- P.1… 表紙(夏の大村湾～東彼杵町八反田郷からの眺望～)
 - P.2… 鳥インフルエンザシーズンに入りました～予防対策の徹底をお願いします!～
 - P.3… 野生イノシシの豚熱感染拡大にご注意ください
令和8年度家畜伝染病発生時の後方支援センター及び消毒ポイントの
設営・運営演習
 - P.4… 韓国で口蹄疫、アフリカ豚熱、ランピースキン病の発生が拡大しています!
長崎空港での動物検疫広報キャンペーンに参加しました
 - P.5… 鶏伝染性喉頭気管炎(ILT)の発生に注意してください
令和8年度長崎県家畜保健衛生業績発表会および第67回九州・沖縄
ブロック家畜保健衛生業績発表会
 - P.6… 農場内や周囲環境の再確認をお願いします
獣医師確保対策:学生の職場体験

長崎県県央振興局農林部 (中央家畜保健衛生所)

〒854-0063 長崎県諫早市貝津町3118

TEL 0957-25-1331 (代) (休日、夜間も携帯電話に転送されます)

FAX 0957-25-1332

E-mail 衛生課: s34500@pref.nagasaki.lg.jp

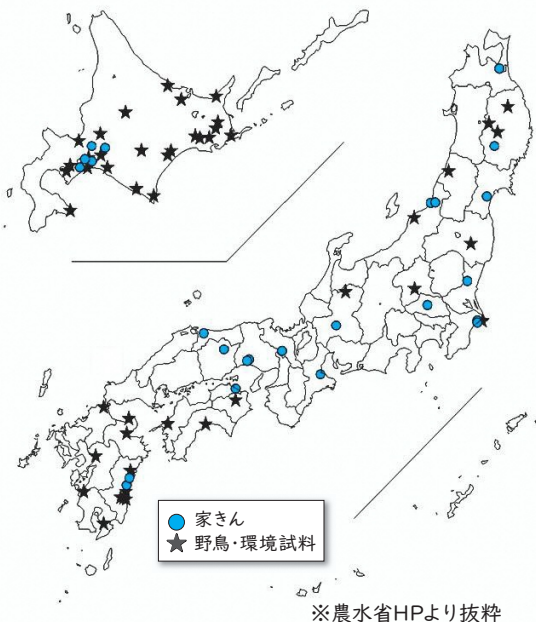
防疫課: s34510@pref.nagasaki.lg.jp

検査課: s34520@pref.nagasaki.lg.jp

鳥インフルエンザシーズンに入りました ～予防対策の徹底をお願いします！～

昨シーズン（2025年～2026年シーズン）の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）は10月22日に北海道の採卵鶏農場で初発が確認されて以降、16道府県24事例が発生し、全国的な発生となりました。昨シーズンの発生の特徴として、20万羽以上を飼養する大規模農場の発生が12事例確認されたほか、また、過去に発生があった農場における再発が8事例確認されています。また、農林水産省が公表した疫学調査報告書では、発生農場において次のような問題点が指摘されています。

令和7年シーズンの発生状況



発生農場で確認された主な問題点

○通報の遅れ

- ・他疾病と判断し、経過観察を継続していた
- ・死亡鶏の確認が不十分であった
- ・従事者の通報義務に関する理解が不十分であった

○鶏舎出入口における衛生管理の不徹底

- ・鶏舎専用靴への履き替えが徹底されていなかった
- ・鶏舎裏口での消毒や履き替えの不備

○外部事業者への衛生管理対策の不徹底

- ・専用衣服や専用靴の着用が不十分

○野生動物侵入防止対策の不備

- ・鶏舎や防鳥ネットの破損
- ・野鳥やねずみ等の侵入

今シーズンも既に渡り鳥の飛来が始まっていることから、国内にウイルスが侵入することが考えられます。農場へのウイルス侵入を防ぐため、以下の重点事項について改めて確認をお願いします。また、鶏に異状を認めた場合は、直ちに家畜保健衛生所にご連絡ください。



早期発見・早期通報



外部事業者への対応の徹底



鶏舎ごとの
専用靴への履替、消毒の徹底



従業員への飼養衛生管理の周知

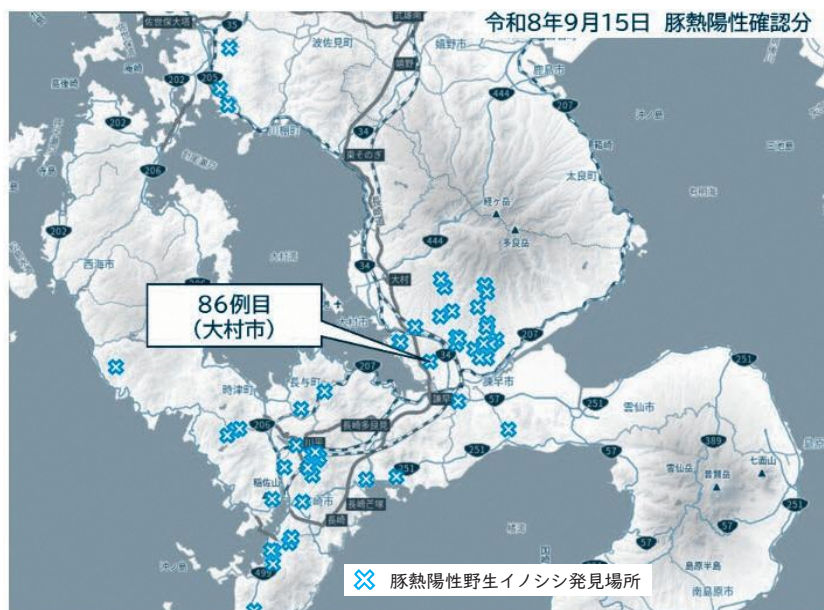


鶏舎、防鳥ネットの修繕



ねずみ等の野生鳥獣対策の徹底

野生イノシシでの豚熱感染拡大にご注意ください



管内の野生イノシシで豚熱の感染確認が相次いでいます。今年1月に諫早市で豚熱感染イノシシが初めて確認されて以降、3月には長崎市、4月には大村市、7月には長与町でも初確認されるなど、**感染確認地域は拡大しています。**

秋から冬にかけてはイノシシの繁殖期となり、個体の移動や接触機会が増えることで、感染が拡大するおそれがあります。そのため、これまで感染が確認されていない地域でも警戒が必要です。

養豚農家の皆さまにおかれましては、豚熱ウイルスの侵入を防ぐため、

防護柵等に破損箇所がないか改めて点検いただき、破損を確認した場合は速やかに補修してください。あわせて、農場出入口での消毒など、日ごろの飼養衛生管理基準の遵守を引き続きお願いします。

また、秋の行楽シーズンを迎え、レジャーやキノコ採りなどで山林に立ち入る機会が増える時期となります。山林に入った際は、靴や車両に付着した泥を十分に除去し、豚熱ウイルスを農場へ持ち込まないようにご協力をお願いします。

令和8年度家畜伝染病発生時の後方支援センター及び消毒ポイントの設営・運営演習

7月3日、令和8年度家畜伝染病発生時における後方支援センター及び消毒ポイントの設営・運営演習を実施しました。

今回の発生想定地区である大村市をはじめとする各市町、民間事業者、関係機関ならびに県各機関など約100名が参加しました。後方支援センターの設営では、資材の仕分け、レイアウト図に基づいた机や椅子、各種資材を配置の演習を行いました。

また、防疫作業員が受付から問診、防護服等の受け取り、氏名等の記入、防護服の着衣、私物の預け入れまでの一連の流れ、加えて防護服の着脱訓練等の運営についても演習を行いました。

さらに、消毒ポイントの設営・運営演習についても実施し、参加者の理解を深めました。

今後も万が一の発生に備えて速やかに防疫措置ができるよう、防疫演習を開催していきます。



防護服の着脱訓練

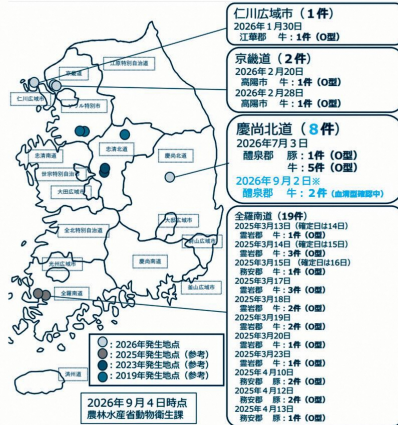


車両消毒の手順の実演

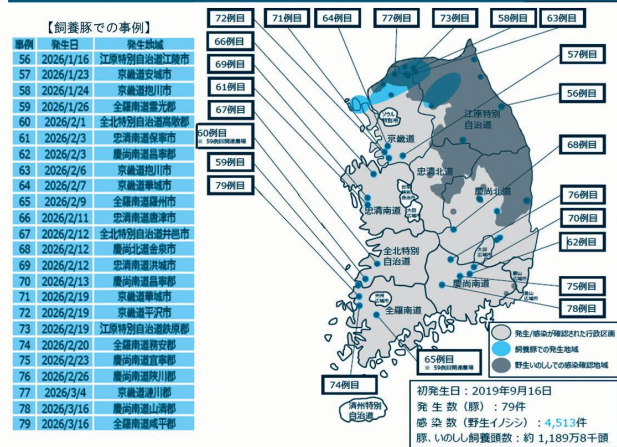
韓国で口蹄疫、アフリカ豚熱、ランピースキン病の発生が拡大しています！

韓国では、口蹄疫、アフリカ豚熱 (ASF) 及びランピースキン病の発生が継続して確認されており、発生地域も広範囲に及んでいます。このため、これらの家畜伝染病が我が国へ侵入するリスクは極めて高い状況にあります。畜産農家の皆様におかれましては、下記の飼養衛生管理基準の遵守及び発生予防対策の徹底をお願いいたします。

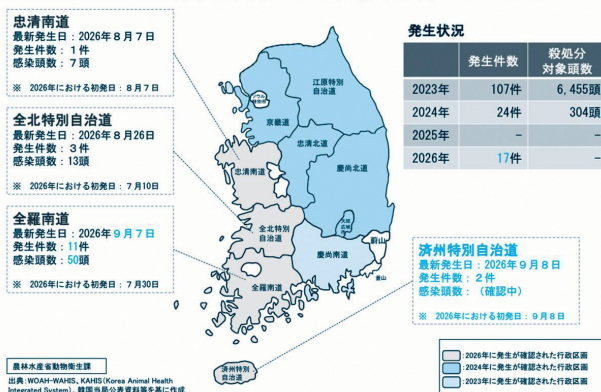
韓国における口蹄疫の発生報告状況 (2025年3月以降)



韓国におけるアフリカ豚熱の発生状況



韓国におけるランピースキン病の発生状況 (2025年9月11日時点)



発生予防の徹底をお願いします！

- ❑ 農場の出入口に看板を設置するなどにより、関係者以外の立入を制限しましょう。
- ❑ 農場の出入り時は、専用の靴・衣服を着用し、手指を消毒するとともに、持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底しましょう。
- ❑ 畜舎専用の靴の着用や畜舎出入口に踏込消毒槽などを設置することにより、出入りする人の靴底の消毒を徹底しましょう。
- ❑ 従業員の方も含め、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控えるとともに、これらの国からの郵便物等は衛生管理区域に持ち込まないようにしましょう。
- ❑ 毎日、飼養家畜の健康観察を行い、疑わしい症状があれば直ぐに通報しましょう。

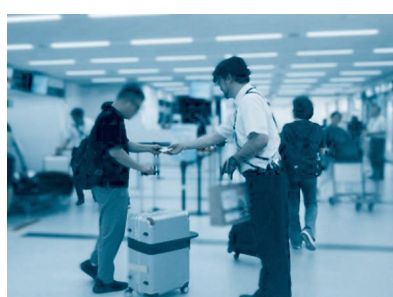


※いずれも農水省HPより抜粋

長崎空港での動物検疫広報キャンペーンに参加しました

7月23日、長崎空港において動物検疫所門司支所長崎空港出張所が実施する動物検疫広報キャンペーンに参加しました。現在、長崎空港では、韓国・仁川空港間に定期便が就航しており、多くの外国人観光客利用が増加しています。

キャンペーンでは、病原体に汚染された可能性がある肉製品等の持ち込み禁止等について、航空機を利用される方へ周知するため、広報用ティッシュ、チラシの配布を行いました。また、到着客を対象とした、検疫探知犬による検疫活動についても見学しました。9月に新千歳空港で中国から持ち込まれようとしたヤギの生肉から、感染性のある口蹄疫ウイルスが検出された事例が報告され、水際での検疫体制が国内への家畜伝染病の侵入防止に極めて重要な役割を果たしていることが改めて示されました。国内畜産業を守るための水際防疫は、農場、家畜保健衛生所だけでなく、検疫・空港関係者、探知犬をはじめ、多くの人の協力・努力によって堅持されていることを実感しました。



広報用ティッシュチラシ

ティッシュ配布の様子

動物検疫所門司支所長崎空港出張所の皆様と

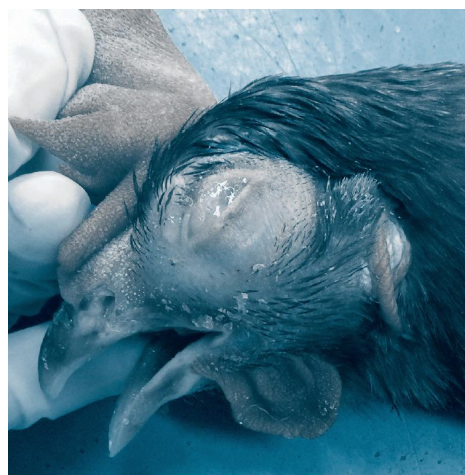
鶏伝染性喉頭気管炎(ILT)の発生に注意してください!

鶏伝染性喉頭気管炎(ILT)は、ILTウイルスによる呼吸器病で、開口呼吸、異常呼吸音(奇声)、血痰、産卵率の低下などを示し、重症化すると死亡することがあります。また、マイコプラズマや細菌との混合感染が起こると、顔面の腫脹などの症状が認められる場合があります。

令和8年6月、県内の採卵鶏農場でILTウイルスとパスツレラ属菌の混合感染症が確認されました。

ILTに感染した鶏は回復後もウイルスを保持し、ストレスをきっかけに再びウイルスを排出することがあるため、オールアウトが難しい農場ではウイルスが定着し、被害が続くおそれがあります。今回発生が確認された農場でも、数年前から鶏の導入後に呼吸器症状や産卵率の低下、死亡羽数の増加が繰り返しみられており、以前からILTウイルスが農場内に存在していた可能性も疑われます。

近年、九州の複数県でILTの発生が報告されています。生産者の皆様には、飼養衛生管理基準の遵守と病原体侵入防止対策の徹底をお願いします。また、呼吸器症状や産卵率低下などの異常がみられた場合は、速やかに家畜保健衛生所へご相談ください。



発症鶏にみられた顔面腫脹と鼻汁

令和8年度長崎県家畜保健衛生業績発表会および第67回九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会

5月27日に長崎県庁において標記発表会が開催され、下記の6演題について当所職員が発表しました。さらに○印のある演題については、7月8日に本県で開催された第67回九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会において県代表演題として発表し、山崎邦隆専門幹が発表した演題については、9月に東京都で開催される全国家畜保健衛生業績発表会での発表演題に選出されました。



長崎県家畜保健衛生業績発表会



九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会(表彰)

【当所の発表演題、所属課班名、発表者名】

- 1. 肉用牛繁殖経営における分娩間隔短縮を目的とした繁殖巡回指導の強化 (指導班 山崎邦隆)
- 2. 牛呼吸器病症候群における牛鼻炎A ウイルスの関与と病態悪化リスク因子の分析 (検査課 井上大輔)
- 3. 流行性出血病ウイルス血清型6の流行状況調査と性状解析 (病性鑑定班 山崎絵美)
- 4. ホルマリン固定パラフィン包埋標本からシンプ血清群ウイルス遺伝子の検出法の検討 (病性鑑定班 中川竜太郎)
- 5. 新生子牛における腸管外病原性大腸菌感染症と深在性真菌症の混合感染症例 (病性鑑定班 下條憲吾)
- 6. 肉用鶏3農場で発生した鶏ウイルス性腱鞘炎／関節炎 (養豚養鶏班 堀江顕)

農場内や周囲環境の再確認をお願いします

○苦情発生戸数（畜種・種類別）（令和7年）
（ ）内は苦情発生割合（飼養戸数当たりの苦情発生戸数の割合）

区分	悪臭	水質汚濁	衛生害虫	その他	計（※2）
乳用牛	179 (1.6%)	78 (0.7%)	34 (0.3%)	95 (0.8%)	307 (2.7%)
肉用牛	188 (0.6%)	55 (0.2%)	40 (0.1%)	99 (0.3%)	326 (1.0%)
豚	205 (6.8%)	88 (2.9%)	8 (0.3%)	27 (0.9%)	276 (9.2%)
採卵鶏	107 (6.6%)	17 (1.0%)	46 (2.8%)	27 (1.7%)	162 (10.0%)
ブロイラー	53 (2.5%)	5 (0.2%)	2 (0.1%)	13 (0.6%)	65 (3.1%)
その他	26	10	8	80	115
計	758	253	138	341	1,251

※複数の畜種を飼養している農家において苦情が発生し、その苦情の原因畜種が特定できない場合は、主たる飼養畜種の種類として計上している。
※複数種類の苦情を併発しているものは1戸として計上しているため、種類別発生戸数の合計とは一致しない。

出典：農林水産省畜産振興課調べ、農林水産省「畜産統計」

- ・農場内の確認（農場外へ汚水が流れ出る箇所はないか、ハエやウジが大量発生している箇所、発生しやすい箇所はないか・・・）
- ・農場外にもこれまでより目配りを（周囲の臭いはどうか、ハエが多く飛んでいないか、農場からふんが混じった汚水など流出していないか・・・）

問題点が確認された場合は直ちに改善するようにお願いします。

農林水産省の統計によると、畜産経営由来の苦情発生件数は微減傾向であり、苦情の内容の半数以上が悪臭、次いで水質汚濁、衛生害虫となっています。また、苦情発生戸数は乳用牛、肉用牛、豚が多く、発生率は豚と採卵鶏（特に悪臭）が高くなっています。

特に夏から秋にかけては、畜産経営由来の苦情発生が多い時期となります。まだ気温が高い時期が続くことから、ハエ等衛生害虫の大量発生や大雨による農場内から農場外への汚水流出など注意が必要です。

また、畜産経営を開始した頃とは周りの環境も大きく変化し、都市化により畜舎の近隣に住宅が増えた地域もあります。

周囲の環境に配慮しながら、持続可能な畜産経営を行うために、以下の点に注意をお願いします。

獣医師確保対策：学生の職場体験

獣医師確保対策の一環として、公務員獣医師の仕事内容を実際に理解・体験してもらうため、中学生2名、大学生2名の受け入れを実施しました。

大学生は、管内の肉用牛繁殖・養豚・養鶏農場の巡回、飼養衛生管理指導や採血、繁殖検診の体験・見学、その他、血液検査や細菌検査などの病性鑑定業務に加えて、諫早食肉衛生検査所の協力のもと、と畜検査業務を見学しました。

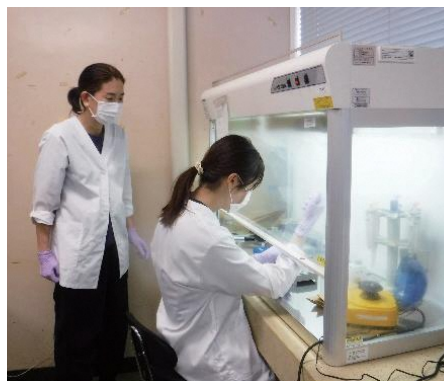
また、中学生は家畜保健衛生所の業務内容の説明を聴き、鶏の血液検査を体験しました。さらに、現地では牛の飼養現場を見学し、牛の触り方や心音の聴診、心音の聴診、妊娠鑑定においてエコー画像で牛の胎子を確認しました。学生にとっては、実際の現場を感じることができ貴重な経験になったと思います。研修生の同行を快く受け入れていただいた各農場主の皆様には感謝申し上げます。



画像で牛の胎児を確認
(中学生)



現場で豚の保定作業



ウイルス検査手法を指導